

時代を超えて「ものづくりは人づくり」 長所を生かし、確かな技術継承を

株式会社広瀬アルミは住宅用アルミサッシの一貫製造、アルミ材部品品の加工を手掛ける企業です。江戸時代中期の銅製品製作に始まり、大正からは火鉢の落としを中心に製造。昭和35年に大手アルミメーカーからの依頼を機にアルミ加工へと軸足を移し、時代と共に技術を高めながらものづくり企業として成長を続けています。代表取締役社長を務める廣瀬宏一氏に、これまでの歩みや将来への取り組みについて伺いました。

株式会社広瀬アルミ
代表取締役社長 廣瀬 宏一 氏

火鉢の落としを長年製作

Q. 江戸時代よりものづくりに携わってこられた、これまでの歩みをお聞かせください。

当社の原点は江戸中期に始めた銅製品の製作とされ、実は私が何代目なのかもわかりません。当時は廣瀬半平の屋号で、わが家に残る明治期の大福帳（商店の元帳）によると、東京や大阪でも取引していたようです。

大正初めに広瀬製作所として、木製火鉢の落とし（灰や炭を入れる炉の部分）を中心に製造し、落としをはめこむ漆器の産地などに納めていました。先代の父は頼まれて下呂温泉にある老舗旅館の初代の銅像を製作したこともありました。

昭和35年、三協アルミニウム

工業株式会社（現・三協立山株式会社）が設立され、当社は深絞り加工ができるドローイングプレスを活用して、アルミ製鍋を受注生産することになりました。父も火鉢の需要減少を見据えて活路としたのでしょう。協加工場としてアルミ板加工に軸足を移しました。その後、三協アルミの主力製品が建材へとシフトし、当社も昭和47年に株式会社広瀬アルミへと組織変更して、住宅サッシ生産に対応した福光工場を新設しました。

高度成長の繁忙期は高岡の本社工場も含めてフル稼働で、住み込みの従業員もいました。私は工場の中で育ったようなものです。当時、従業員は仕事が終わると会社の風呂に入ってから帰宅していたので、一緒に入っていました。

設備機械を自社で製作

Q. アルミ材加工を中心とする生産体制や強みについてお聞かせください。

高岡本社と福光の2工場では住宅用サッシ製品、三協アルミ社の2工場でも構内外注でサッシとエクステリアを生産しています。サッシも材料、種類、色が多様化し、サイクルも短く、各所で異なる商品を作っています。一時期ヒートシンクやソーラーパネル関連部品も生産。いろいろ切り替わるなかで、建材は継続しています。形材に切断、穴あけ等の各種加工を施し、部品を取り付けてサッシに組み立て、梱包して出荷するまでを一貫して手掛けています。

加工用の設備機械、各種金型

や治工具も自社で製作できるのが強みです。作業工程の変更にも素早く対応でき、短納期、コスト抑制につなげています。

課題は各工程で導入が進むコンピュータ化への対応です。伝票1枚ごとに寸法も違えば、金型の順番もさまざま、QRコードなどですべて漏れがないように次の工程とリンクさせたりしていますが、それらを動かすのは人の手で。また、押出材の性質上、コンピュータに任せきりだと形材の切断精度に微妙な差が出る影響で、各部品との誤差を生むため、そのあたりの融合も必要です。

ベクトルを同じ向きに

Q. アルミを通じて優れた品質を追求し、信頼される企業を目指していく上で、どのようなことを重視されていますか？

人材育成が最も大切であり、難しいと日々実感しています。少子化で人員の確保も一層厳しくなっています。ものづくりは人づくり。人がいなければ「もの」はつくれません。

能力の向上というより、いかにしてベクトルを同じ方向にしていけるかを大切にしています。まずは仕事に興味ややりがいをもってもらえるように、言葉だけでなく、一緒に取り組む姿勢

ひろせ・こういち

昭和32年6月18日、高岡市生まれ。56年、東海大学工学部卒業後、三協アルミニウム工業株式会社を経て、62年、株式会社広瀬アルミに入社。平成5年、常務取締役、7年、代表取締役社長に就任。平成23年、三協アルミ協同組合専務理事、令和元年、三協立山協力工場連絡協議会会長に就任、現在に至る。富山県中小企業団体中央会副会長。



を心掛けています。短所はいくら怒っても直しきれないので、一人ひとりの長所を伸ばすことが人づくりであると考えます。

新型コロナの影響で人を集めての朝礼を控えたり、私が各工場に立ち入る回数も減ったりして、思いを伝える機会が少なくなっています。コミュニケーションを意識的に図る必要性を感じています。

NCがあれば熟練工でなくても切削できる時代でも、ものづくりは微妙な加減や感覚を必要とする場面があります。例えば、火鉢の落としの製作は不慣れだと工具の角が当たって金属が延びるどころか割れてしまうように、アルミ板も刃の方向や角度などが合っていればスムーズに切れて異音はしないものです。職人的な技術の継承も大切にしたいと考えます。

今年、息子が取締役になりました。私自身、父と仕事の話をしたことがなく、時代が変わればやり方も変わるという考えです。息子の代もその時の状況に応じて、新しい考えをもって進むしかないと思っています。

研鑽や情報交換の場

Q. 平成23年から専務理事を務める三協アルミ協同企業組合についてお聞かせください。

当組合は昭和35年12月、当時

の三協アルミニウム工業株式会社の協力メーカーの資金調達を目的として設立されました。父も設立から関わったと聞いています。組合員11名でスタートし、徐々に増えて平成8年には53名を数えたこともありました。

時代と共に資金調達を支援する役割は薄れていますが、現在（令和3年5月末）は38名で組織し、活動として年1回、さまざまな業界から講師を招き研修を行っています。昨年は新型コロナの影響で開催できませんでしたが、視野を広げるとともに組合員の貴重な情報交換や親睦の機会となっています。

DIYや湯めぐり楽しむ

Q. 休日どのように過ごされていますか？

庭や家の手入れなど、DIYを楽しんでいます。湯めぐりも好きで、子どもが小さい頃は家族旅行やドライブを兼ねて、富山県内のほか、石川、岐阜などの近県にも足を延ばしました。富山県内の主だった湯はほぼ訪れたと思います。最近では福光で湯めぐりバスポートを利用したり、近場の天然温泉や炭酸泉で楽しんでいます。



本社社屋



明治～大正期の大福帳